

令和7年度

園芸工学・農業経済科 3学年

シラバス
(授業計画)



Kagoshima prefectural YAMAGAWA High School

鹿児島県立山川高等学校

令和7年度 全科共通【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|---------------------------------------|----|-------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 国語科 | 科目 | 現代の国語 | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 新編現代の国語 | | | | | | |
| 副教材等 | 常用漢字ダブルクリア(尚文出版), テスト式 国語常識の総演習(京都書房) | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・ 授業では, 学習内容をノートに記入したり, 資料プリントを利用して理解を深めたりします。しっかり聞いて, 考えて, 自分の考えを発表しましょう。また, 配付されたものは整理して綴っておきましょう。
- ・ 授業中に分からないことがあれば, 遠慮なく質問しましょう。
- ・ 朗読や発表をするときには, できるだけ大きな声ではっきりと行いましょう。
- ・ 復習をしっかり行うことで学習内容が身についていきます。

2 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ, 言語活動を通して, 国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|-----------------------------|--|---|
| 観点の趣旨 | 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし, 他者との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに, 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ, 我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち, 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
| 評価方法 | 定期考査, 課題考査等 | 提出物, 授業ノート, 発言等 | 授業態度, 発言, 出席状況等 |

上に示す観点に基づいて, 学習のまとめりにごとに評価し, 学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---------|--------------------|---------|---|---|--|--------------------|
| | | a | b | c | | |
| 1 学期 | スキマが育む都市の緑と生命のつながり | ○ | ○ | ○ | a:言葉の認識や思考を支える働きを理解している b:「読むこと」について要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」において伝え合う内容を検討している。 c:自分の考えをまとめ, 話し合おうとしている | 考査成績 提出物 発言等 |
| | 鍋洗いの日々 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 真夏のひしこ漁 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 学期 | 発想を広げる方法を使って話し合おう | ○ | ○ | ○ | a:言葉の認識や思考を支える働きを理解している b:「読むこと」について要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」において伝え合う内容を検討している。 c:自分の考えをまとめ, 話し合おうとしている | 考査成績 提出物 発言等 |
| | 新聞記事を読んで意見文を書こう | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | | | | |
| 3 学期 | 美しさの発見 | ○ | ○ | ○ | a:言葉の認識や思考を支える働きを理解している b:「読むこと」について要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」において伝え合う内容を検討している。 c:自分の考えをまとめ, 話し合おうとしている | 考査成績 提出物 発言等 |
| | | | | | | |

令和7年度 地歴公民科【シラバス】(全科共通)

| | | | | | | | |
|-------|--------------------------------------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 地理歴史科 | 科目 | 歴史総合 | 単位数 | 3単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 81 山川 歴総 709 わたしたちの歴史 日本から世界へ(山川出版社) | | | | | | |
| 副教材等 | 授業で配布するプリント 等 | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間,教科書・ノートを準備。 ・ 教師の話聞きながら必要に応じてメモを取りましょう。 ・ 社会的事象に関して友達と話し合う時間や意見をまとめる時間もありますので,積極的に発言をしましょう。 |
|---|

2 学習の到達目標(学習指導要領 提示)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ,課題を追究したり解決したりする活動を通して,広い視野に立ち,グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質や能力を養う。 |
|--|

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|--|---|--|
| 観念の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史に関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ・ それぞれの国や時代の歴史的な事柄を基に,各国の政治体制やその変容などについて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な事柄に対して,その背景や原因,結果や影響などに着目し,他国や他の地域と比較したり相互に関連付けたりするなどして主題について多面的多角的に考察し,表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な事柄について,主体的に追究,解決しようとするとともに,我が国の国土への愛情をもち,世界の多様な文化を尊重しようとしている。 ・ 自己の学習状況を客観的に振り返り,記録を残そうとしている。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各テスト ・ ロイロノート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各テスト ・ パフォーマンス課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ リフレクションシート |

上に示す観点に基づいて,学習のまとまりごとに評価し,学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて,それぞれの観点を適切に配分し,評価します。

4 学習の活動(単元の評価規準cについては,上記 学習評価に記載のとおり)

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|-----------------|--|--------------------------|---------|---|---|---|---------------------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 近代化と私たち | <ul style="list-style-type: none"> ・ 近代化への問い ・ 結びつく世界と日本の開国 ・ 国民国家と明治維新 | 産業革命 アヘン戦争 | ○ | ○ | ○ | a: 18世紀のアジアや日本における生産と流通,アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に理解している。 b: 国民国家の形成の背景や影響などに着目し主題を設定し,アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり関連付けたりし,政治変革の特徴や社会の変容などを多面的多角的に考察し表現している。 | 各テスト パフォーマンス課題 リフレクションシート |
| | | | 日本の開国 開国後の日本 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 市民革命 明治維新 大日本帝国憲法 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | 国際秩序の変化や大衆化と私たち | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際秩序の変化や大衆化への問い ・ WWIと大衆社会 ・ 経済危機とWWII | 第一次世界大戦 ロシア革命 社会運動 | ○ | ○ | ○ | a: 大衆の政治参加と女性の地位向上,大正デモクラシーと政党政治,大量消費社会と大衆文化,教育の普及とマスメディアの発達などを基に大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 b: 経済危機の背景と影響,国際秩序や政治体制の変化などに着目し,日本とその他の国や地域の動向を比較したり相互に関連付けたりするなどして各国の世界恐慌への対応への特徴などを多面的多角的に考察し表現している。 | 各テスト パフォーマンス課題 リフレクションシート |
| | | | 世界恐慌 第二次世界大戦 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 戦後国際秩序 冷戦のはじまり | ○ | ○ | ○ | | |
| 3学期 | グローバル化と私たち | <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化への問い ・ 冷戦と世界経済 ・ 世界秩序の変容と日本 | 第三世界 冷戦の展開 | ○ | ○ | ○ | a: 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携,計画経済と波及,日本の高度経済成長などを基に世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解すること。 b: 冷戦が各国経済に及ぼした影響,地域連携の背景と影響,日本の高度経済成長の背景と影響などに着目し,日本とその他の国や地域の動向を比較したり,相互に関連付けたりするなどして,冷戦下の世界経済や地域連携の特徴や社会の変容などを考察し表現している。 | 各テスト パフォーマンス課題 リフレクションシート |
| | | | 55年体制 高度経済成長 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 冷戦の終結 日本の終結 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|--------------------|----|-----|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 数学科 | 科目 | 数学Ⅱ | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 数Ⅱ705「高校数学Ⅱ」(実教出版) | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業では教科書・スタディノートをベースに進める。必要に応じて、ノートを準備すること。 ・評価は定期考査・長期休暇明けの課題考査・授業態度・提出物等をもとに行う。 ・提出物は締切を厳守すること。 |
|---|

2 学習の到達目標

| | |
|---------|--|
| いろいろな関数 | 三角関数は角の概念を一般角まで拡張し、相互関係やグラフの特徴を理解する。指数関数は、指数の範囲を拡張し、関数のグラフの特徴を理解する。対数関数は対数の基本的な性質を理解し、指数との関連を理解する。 |
| 微分と積分 | 三次関数を中心とした関数の値の変化を考察するために微分の有用性を学ぶ。さらにその知識を発展させ、曲線で囲まれた面積や体積を求められるように積分の知識を理解する。 |

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、数学的な表現・処理する技能を身につけている。 | 基本的な法則を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて表現することができる。 | 数学の論理や体系に関心を持ち、事象を数学的論拠に基づいて判断しようとする。また、数学のよさを認識し、活用しようとする。 |
| 評価方法 | ・定期考査・課題考査 ・小テスト など | ・定期考査・小テスト ・授業態度 など | ・授業態度・出席状況 ・提出物 など |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。 | | | |

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|---------|----------|----------|---------|---|---|---|-------------------------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | いろいろな関数 | 三角関数 | 三角関数 | ○ | ○ | ○ | a:式の性質や公式を理解し、それらを用いて計算できる。座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 | 定期考査 課題考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | | 加法定理/弧度法 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 指数関数 | 指数関数 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | | | 対数関数 | 対数関数 | ○ | ○ | | |
| | 微分 | 微分係数と導関数 | | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 導関数の応用 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 3学期 | 微分と積分 | 積分 | 積分の考え | ○ | ○ | ○ | c:授業に意欲的に参加し、理解しようとする。日常の事象について数学的に考察しようとする。 | 定期考査 小テスト 授業態度 提出物 |

令和7年度 全科共通【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|----------------------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 数学科 | 科目 | 数学 A | 単位数 | 3単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 数 A708「高校数学 A」(実教出版) | | | | | | |
| 副教材等 | 高校数学 A スタディノート(実教出版) | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業では教科書・スタディノートをベースに進める。必要に応じて、ノートを準備すること。 ・評価は定期考査・長期休暇明けの課題考査・授業態度・提出物等をもとに行う。 ・提出物は締切を厳守すること。 |
|---|

2 学習の到達目標

| | |
|----------|---|
| 場合の数と確率 | 数の規則性を踏まえて効率的かつ過不足なくものを数え、それを基に確率を求めることができる。求めた確率を使って結果の予測をできるようになる。 |
| 図形の性質 | 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 |
| 数学と人間の活動 | 数の歴史や図形と人間の関わりについて理解を深め、整数や図形について、小中学校で断片的に扱ってきた内容を系統的に学び理解を深め活用できるようになる。 |

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、数学的な表現・処理する技能を身につけている。 | 基本的な法則を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて表現することができる。 | 数学の論理や体系に関心をもち、事象を数学的論拠に基づいて判断しようとする。また、数学のよさを認識し、活用しようとする。 |
| 評価方法 | ・定期考査・課題考査 ・小テスト など | ・定期考査・小テスト ・授業態度 など | ・授業態度・出席状況 ・提出物 など |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|----------|---------------|----------|---------|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 場合の数と確率 | 場合の数 確率 | 集合 | ○ | | ○ | a:集合や P,C を用いて、場合の数や確率を求めることができる。 b:事象に応じて、反復試行の確率や条件付き確率を求めることができる。 c:身近な事象の確率を、数学的に考察しようとする。 | 定期考査 課題考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | | 順列・組み合わせ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 確率 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | 図形の性質 | 三角形の性質 | 三角形の性質 | ○ | ○ | ○ | a:三角形の性質や円の性質を理解し、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 b:三角形の内接円や外接円、円の接線などの性質を用いて、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 c:身近な事象を図形を用いて、数学的に考察しようとする。 | 定期考査 課題考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | 円の性質 | 円の性質 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 作図 | 作図 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 空間図形 | 空間図形 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3学期 | 数学と人間の活動 | 数と人間 図形と人間 | 2進法 | ○ | | ○ | a:2進法や公約数、公倍数、相似について理解し、求めることができる。 b:ユークリッドの互除法や相似を使った測定について考察でき、それらを利用し、値を求めることができる。 c:身近な事象を用いて、数学的に考察しようとする。 | 定期考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | | 整数の性質 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 相似と測定 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|------------------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 化学基礎 | 単位数 | 3単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 化学基礎（実教出版 化基704） | | | | | | |
| 副教材等 | 化学基礎エブリノート | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

授業では、エブリノートで基本的な内容をまとめる。
 評価は、定期考査、授業態度、提出物、小テスト等でおこなう。
 定期考査の誤りは、訂正プリントに整理・訂正する。

2 学習の到達目標

- (1) 原子の基本的な構造について理解し、元素記号を理解する。
- (2) イオン・共有・金属結合について理解を深める。
- (3) 化学変化についての理解を深め、その変化を化学反応式で表すことができるようになる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|---|---|--|
| 観点の趣旨 | 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。 | 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査 小テスト | 定期考査 エブリノートの記述 | ノートの記述、春・夏休み課題 授業態度、訂正プリント |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|-------|---------|----------|---------|---|---|---|-----------------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 物質の構成 | 物質の構成 | 物質の探求 | ○ | ○ | ○ | a: 元素の記号・名称, 原子の構造や性質について理解している。 b: 生活と関連付けて観察, 実験等を行い, 科学的に考察し表現している。 c: 物質の分離・精製の実験などの基本操作と物質を探求している。 | 定期考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | | 物質の構成粒子 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | 化学結合 | 物質と化学結合 | イオン結合 | ○ | ○ | ○ | a: 電子配置やイオンの生成, イオン式を理解している。 b: 生活と関連付けて観察, 実験等を行い, 科学的に考察し表現している。 c: 観察, 実験などの結果から科学的に探究している。 | 定期考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | | 共有結合 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 金属結合 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3学期 | 物質の変化 | 物質の変化 | 物質と化学反応式 | ○ | ○ | ○ | a: 粒子の数にもとづいた物質と量という量の表し方を使い, 粒子数, 質量との関係を理解している。 b: 生活と関連付けて観察, 実験等を行い, 科学的に考察し表現している。 c: 観察, 実験などの結果から科学的に探究している。 | 定期考査 小テスト 授業態度 提出物 |
| | | | 酸と塩基 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 全科共通【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|--------------------------------|----|----|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育 | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育 | | | | | | |
| 副教材等 | 現代高等保健体育ノート, ステップアップ高校スポーツ2023 | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・体育服, 靴下, シューズの忘れ物がないように準備をしましょう。 ・自主的に活動に取り組み, 運動習慣を確立させましょう。 ・課題を解決するための話し合いに自主的に関わり, 発言をしましょう。 |
|---|

2 学習の到達目標

| |
|---|
| <p>(1) 運動の合理的, 計画的な実践を通して, 運動の楽しさや喜びを深く味わい, 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため, 運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに, それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し判断するとともに, 自己や仲間の考えことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して, 公正に取り組む, 互いに協力する, 自己の責任を果たす, 参画する, 一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに, 健康・安全を確保して, 生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p> |
|---|

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|---|
| 観点の趣旨 | 運動の合理的, 計画的な実践を通して, 運動の楽しさや喜びを深く味わい, 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため, 運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに, それらの技能を身に付けている。 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し判断するとともに, 自己や仲間の考えことを他者に伝えている。 | 生涯にわたって継続して運動に親しむために, 運動における競争や協働の経験を通して, 公正に取り組む, 互いに協力する, 自己の責任を果たす, 参画する, 一人一人の違いを大切にしようとするとともに, 健康・安全を確保している。 |
| 評価方法 | 筆記テスト, 実技テスト | 観察, ワークシート | 観察, ワークシート |
| 上に示す観点に基づいて, 学習のまとめりにあわせて評価し, 学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。 | | | |

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|----|--------------------------------------|--------------------------|---------|---|---|---|--------------------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | | ・体づくり運動 ・体育理論 ・球技 | 体づくり運動 | ○ | | ○ | a: 運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに, 目的に応じた技能を身につけている。 b: 自己や仲間の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて, 課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに, それらを他者に伝えている。 c: 一人一人の違いを大切にするとともに主体的に合意形成に貢献しようとしている。 | 筆記テスト 実技テスト ワークシート 観察 |
| | | | 体ほぐしの運動 | | ○ | ○ | | |
| | | | 体育理論 | | ○ | ○ | | |
| | | | バレーボール バドミントン 卓球 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | 体育 | ・球技 ・武道 ・陸上競技 ・ダンス ・体育理論 | 体育理論 | ○ | ○ | | | |
| | | | サッカー | | | | | |
| | | | ソフトボール バスケットボール 剣道 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 短距離 リレー フォークダンス | ○ | ○ | ○ | | |
| 3学期 | | ・陸上競技 ・ダンス ・体育理論 | 体育理論 | ○ | ○ | | | |
| | | | 長距離走 フォークダンス | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 全科共通【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|----|------------------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 外国語科 | 科目 | 英語 コミュニケーションⅡ | 単位数 | 3単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | All aboard! English Communication Ⅱ | | | | | | |
| 副教材等 | 英作基本文例600【第6版】 | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・毎回ノートに予習をして授業を受けてください。
- ・授業時に配付されるテスト対策プリントや参考プリントをファイルに綴じておいてください。
- ・定期考査や課題考査で間違えた箇所は毎回ノートに訂正してもらいます。

2 学習の到達目標

- (1) 日常のもしくは社会的な話題について、聞いたことや読んだことから必要な情報をくみ取り、その情報や考え、気持ちなどを論理的に英語で話したり書いたりして伝えるための能力を身につける。
- (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
- (3) 実用英語技能検定(英検)の準2級程度の英語力を身につける。(CEFR A2)

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて十分理解を深めるとともに、その知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、様々な目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して論理的に表現したり伝え合ったりしている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮し、また主体的、自律的に概要や要点、詳細を整理して、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |
| 評価方法 | ・定期考査・課題考査 ・パフォーマンステスト | ・定期考査・課題考査 ・パフォーマンステスト | ・授業態度(授業時の発言や発表等) ・出席状況・課題考査 ・訂正や宿題等の提出物 ・パフォーマンステスト |

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|-------------------------------------|---|--|---------|---|---|--|---|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 関係代名詞・比較表現・itの用法・間接疑問文 | Lesson 1 A Colorful Island | イタリアのプラーノ島への旅行を報告する SNS を通して、その島の特色を理解する。 | ○ | ○ | ○ | a: 音声、語彙、表現、文法(関係代名詞、比較表現、it の用法、間接疑問文)、言語の働きを十分理解し、適切に活用する技能を身につけている。 b: 日常のもしくは社会的な話題を読み聞きし、その内容を的確に理解している。また、それをもとに適切に、また論理的に表現したり、伝え合ったりしている。 c: 授業態度、出席状況、提出物が良好である。また、ある絵や表の指示に従って、インタビューをし、その意見を概要や要点、詳細を整理して英文でまとめることができる。 | 定期考査 課題考査 授業態度 出席状況 提出物 パフォーマンステスト |
| | | Lesson 2 With the Beatles | 曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて概要を捉える | | | | | |
| | | Lesson 3 Wild Men | ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 | | | | | |
| | | Lesson 4 Little Hero | 世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 | | | | | |
| 2学期 | to不定詞表現・目的語のif節・関係副詞where when・知覚動詞 | Lesson 5 Special Makeup in Kabuki | 日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について理解する。 | ○ | ○ | ○ | a: 音声、語彙、表現、文法(to 不定詞、目的語の if 節、関係副詞、知覚動詞)、言語の働きを十分理解し、適切に活用する技能を身につけている。 b: 日常のもしくは社会的な話題を読み聞きし、その内容を的確に理解している。また、それをもとに適切に、また論理的に表現したり、伝え合ったりしている。 c: 授業態度、出席状況、提出物が良好である。また、ある絵や表の指示に従って、インタビューやリサーチをし、その意見を概要や要点、詳細を整理して英文でまとめることができる。 | 定期考査 課題考査 授業態度 出席状況 提出物 パフォーマンステスト |
| | | Lesson 6 Seeds for Future Generations | 海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 | | | | | |
| | | Lesson 7 Over the Wall | 世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について概要を捉える。 | | | | | |
| | | Lesson 8 Inspiration from Nature | 生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について理解する。 | | | | | |
| 3学期 | 使役動詞・分詞構文 | Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate | チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について理解する。 | ○ | ○ | ○ | a: 音声、語彙、表現、文法(使役動詞、分詞構文)、言語の働きを十分理解し、適切に活用する技能を身につけている。 b: 日常のもしくは社会的な話題を読み聞きし、その内容を的確に理解している。また、それをもとに適切に、また論理的に表現したり、伝え合ったりしている。 c: 授業態度、出席状況、提出物が良好である。また、ある絵や表の指示に従って、インタビューをし、その意見を概要や要点、詳細を整理して英文でまとめることができる。 | 定期考査 課題考査 授業態度 出席状況 提出物 パフォーマンステスト |
| | | Lesson 10 Fighting Angel | 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について理解する。 | | | | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|----------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業 | 科目 | 課題研究 | 単位数 | 3単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 使用教科書 なし | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・調査・研究の際は、実習着を忘れずにもってきましょう。
- ・調査・研究は安全第一で取り組むとともに、行動の際は意味や意義の理解に努めましょう。
- ・発表や対象の相手に伝えることを前提に、記録や考察、分析などを適宜行いましょう。
- ・記録としての写真も積極的に撮影しましょう。(スライド発表などで使用することを前提に)
- ・チームで取り組む場合、意見や考えを出し合い、お互いの考えを尊重するとともに、調整などを図りましょう。

2 学習の到達目標

- (1) 農業(野菜, 草花, 食品製造など)に関する課題を設定し, その課題の解決を図る学習をとおして, 専門的な知識と技術の進化, 総合化を図る。
- (2) 問題解決の能力や自発的, 創造的な学習態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|---|--|--|
| 観点の趣旨 | 農業の生産について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 | 農業の生産に関する課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 | 農産物の生産や人間生活との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | レポートの内容 研究状況, 調査, 観察記録, レポート, 発表 | 研究状況, レポート 中間報告, まとめ 最終研究発表, プレゼン テーション | 学習, 研究状況, 出席状況, 調査, 観察記録 |

上に示す観点に基づいて, 学習のまとめりにごとに評価し, 学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 題材等 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|---------|-------------------------|---------|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | | |
| 1学期 | テーマ設定 | 計画の作成 計画発表会 調査・研究 | | ○ | ○ | a:野菜, 草花, 食品製造に関する課題について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 b:野菜, 草花, 食品製造などに関する課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 c:野菜, 草花, 食品製造などが人間生活や社会との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 調査・研究状況(態度・技能) 出席状況 取組状況(服装・実習レポート) 準備・段取り |
| | 結果のまとめ① | 調査・研究・観察 レポート作成 | ○ | | ○ | | |
| | 中間報告① | 中間発表会 調査・研究 | ○ | ○ | | | |
| 2学期 | 結果のまとめ② | 調査・研究・観察 レポート作成 | ○ | | ○ | 調査・研究状況(態度・技能) 出席状況 取組状況(服装・実習レポート) 準備・段取り | |
| | 中間報告② | 中間発表会 調査・研究 | ○ | ○ | | | |
| 3学期 | 年間のまとめ | レポート作成 プレゼンテーション作成 | ○ | | ○ | 取組状況(レポート) まとめ・プレゼンテーション作成状況 | |
| | 全体発表 | 全体での発表会 | | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業 | 科目 | 総合実習 | 単位数 | 3単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 野菜(実教出版), 草花(実教出版) | | | | | | |
| 副教材等 | 日本農業技術検定テキスト, 日本農業技術検定問題集, 配布する参考資料 | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・授業は, 原則実習です。実習着を忘れずにもってきましょう。
- ・実習は安全第一で取り組むとともに, 行動の際は意味や意義の理解に努めましょう。
- ・気温や湿度, 自分の体調などを踏まえ, 熱中症も含めて怪我などの防止に努めましょう。
- ・衛生管理の面から, 実習着は持ち帰り洗濯し更衣室も含めて清潔な環境作りに努めましょう。
- ・日々変化する植物の様子を観察しながら, 今まで気付かなかったことを発見しましょう。
- ・各実習後には, レポート(報告書)の提出があります。必ず毎回提出しましょう。

2 学習の到達目標

- (1) 野菜及び草花の栽培について体系的・系統的に理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。
- (2) 野菜及び草花の栽培に関する課題を発見し, 産業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
- (3) 野菜及び草花の栽培及びその経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び, 農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|--|--|--|
| 観点の趣旨 | 農業の生産について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 | 農業の生産に関する課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 | 農産物の生産や人間生活との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | 実習レポートの内容 実習時の実技・技能 施肥や農薬希釈の計算 小テスト | 実習レポートの内容 実習時の思考・判断 意見発表 長期休業中の課題 研修レポート等の内容 | 実習中の取組状況・態度 課題の提出状況 |

上に示す観点に基づいて, 学習のまとまりごとに評価し, 学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 部 門 (題材等) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---------|--------------|---------------------------------|---------|---|---|--|---|
| | | | a | b | c | | |
| 1 学期 | 野 菜 | トマト, キュウリ, スイートコーンなどの栽培管理を学びます。 | ○ | ○ | ○ | a:トマト, キュウリ, スイートコーン, カーネーション, アジサイなどの栽培について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 b:トマト, キュウリ, スイートコーン, カーネーション, アジサイなどの栽培に関する課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 | 春休みの課題 実習レポート 観察・考察 実習状況 意見発表 実物鑑定 小テスト |

| | | | | | | | |
|-------------|----|---------------------------------|---|---|---|--|---|
| | 草花 | 鉢もの(カーネーション, アジサイなど)の栽培管理を学びます。 | ○ | ○ | ○ | c: トマト, キュウリ, スイートコーン, カーネーション, アジサイなどの栽培と人間生活との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |
| 2 学 期 | 野菜 | ハクサイ, ブロッコリーなどの栽培管理を学びます。 | ○ | ○ | ○ | a: ハクサイ, ブロッコリー, ポインセチア, シクラメンなどの栽培について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 b: ハクサイ, ブロッコリー, ポインセチア, シクラメンなどの栽培に関する課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 c: ハクサイ, ブロッコリー, ポインセチア, シクラメンなどの栽培と人間生活との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。: | 夏休みの課題 実習レポート 観察・考察 実習状況 研修記録 小テスト |
| | 草花 | 鉢もの(ポインセチア, シクラメンなど)の栽培管理を学びます。 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 学 期 | 野菜 | 野菜生産の経営改善について学びます。 | ○ | ○ | ○ | a: パンジー, ペチュニアなどの栽培や野菜生産の経営改善について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 b: パンジー, ペチュニアなどの栽培や野菜生産の経営改善についての課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 c: パンジー, ペチュニアなどの栽培や野菜生産の経営改善と人間生活との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 冬休みの課題 実習レポート 観察・考察 実習状況 研修記録 小テスト |
| | 草花 | 花壇用草花(パンジー, ペチュニアなど)の栽培管理を学びます。 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|---------------------------------------|----|----|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業 | 科目 | 野菜 | 単位数 | 4単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 野菜(実教出版) | | | | | | |
| 副教材等 | 日本農業技術検定テキスト, 日本農業技術検定問題集, 県「かごしまの農業」 | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・授業では, 座学と実習があります。
- ・指宿市や南九州市の野菜栽培の現状を踏まえた内容を中心に取り組みます。
- ・実習があるので, 実習着を忘れずにもってきましょう。
- ・気温や湿度, 自分の体調などを踏まえ, 熱中症も含めて怪我などの予防に努めましょう。
- ・衛生管理の面から, 実習着は持ち帰り洗濯し更衣室も含めて清潔な環境作りに努めましょう。

2 学習の到達目標

- (1)野菜についての興味・関心を高める。
- (2)野菜に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- (3)科学的思考力と問題解決能力を伸ばし, 野菜栽培で活用する能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|---|--|---|
| 観点の趣旨 | 野菜の生産について理解しているとともに, 関連する技術を身に付けている。 | 野菜の生産に関する課題を発見し, 科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 | 野菜の生産や人間生活との関わりについて自ら学び, 主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | ペーパーテスト(考査) 授業中の発表内容 小テスト ワークシート 実習中の実技 | ペーパーテスト(考査) 授業中の発表内容 ワークシート | 授業(実習を含む)態度 授業中の発表状況 提出物の取組状況 |

上に示す観点に基づいて, 学習のまとめりにあわせて評価し, 学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|-----|-------------|----------------|---------|---|---|--|---------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 果菜類 | トマト キュウリ | 生育の経過について学習する。 | ○ | | | a:トマト, キュウリ, トウモロコシについて, 理解し, 基礎的な知識を身に付 | 授業観察 ノート レポート |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|---------------|-------------------|---|---|---|---|-----------------------------|
| | | トウモロコシ | 生育の特性について学習する。 | | | ○ | <p>けている。</p> <p>b:トマト,キュウリ,トウモロコシについて,課題を見出し,その解決を目指して思考を深め,判断・表現する姿が見られる。</p> <p>c:トマト,キュウリ,トウモロコシについて関心を持ち,意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> | 定期考査 |
| | | トウモロコシの収穫をする。 | ○ | | | ○ | | |
| | | 後整理をする。 | | | ○ | | | |
| 2 学 期 | 葉 菜 類 | ハクサイ | 生産の経過について学習する。 | ○ | | | <p>a:ハクサイ,ブロッコリーについて,理解し,基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>b:ハクサイ,ブロッコリーについて,課題を見出し,その解決を目指して思考を深め,判断・表現する姿が見られる。</p> <p>c:ハクサイ,ブロッコリーについて関心を持ち,意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> | 授業観察 ノート レポート 定期考査 |
| | | | 生育の特性について学習する。 | | | | | |
| | | ブロッコリー | 作型について学習する。 | ○ | ○ | | | |
| 3 学 期 | 野 菜 の 流 通 と 経 営 改 善 | 流通と鮮度保持 | 流通と鮮度保持について学習する。 | ○ | ○ | | <p>a:流通,加工,経営改善について,理解し,基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>b:流通,加工,経営改善について,課題を見出し,その解決を目指して思考を深め,判断・表現する姿が見られる。</p> <p>c:流通,加工,経営改善について関心を持ち,意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> | 授業観察 ノート レポート 卒業考査 |
| | | 加工・業務用野菜 | 加工・業務用野菜について学習する。 | ○ | ○ | | | |
| | | 野菜生産の経営改善 | 経営改善について学習する。 | ○ | | | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|---------------|----|----|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業 | 科目 | 草花 | 単位数 | 4単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 7実教 農業 708 草花 | | | | | | |
| 副教材等 | 日本農業技術検定テキスト | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・草花の品種改良がどのように行われたのか、また草花の生育特性と栽培技術、生産施設、環境調節について学ぼう。さらに、年間を通して春植え・秋植えの苗物や鉢物等を栽培することで、基本的知識と技術を習得し、経営上の課題を理解しよう。

2 学習の到達目標

| | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) 品種改良と栽培技術を理解しよう。 | (4) 草花の品質と草姿を知り、その調節法を理解しよう。 |
| (2) 品種改良と繁殖のさまざまな方法を身につけよう。 | (5) 温室やハウスの施設・設備と資材の特徴を理解しよう。 |
| (3) 草花の生育環境と適切な栽培技術を身につけよう。 | (6) 施設・設備を使った栽培管理技術を身につけよう。 |

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|--|---|---|
| 観点の趣旨 | 草花について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 | 草花について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |
| 評価方法 | 定期考査, 検定試験への取り組み | 定期考査, 諸課題, 栽培プロジェクトの成果など | 授業態度, 提出物(課題)への取り組みなど |

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|----|---------|-------------|---------|---|---|---|---------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 6章 | 鉢もの生産 | 鉢もの生産の特色 | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解, 技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び, 主体的に学ぶ態度 | 定期考査, 提出物, 授業への取り組み |
| | | | 鉢もの生産資材 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 鉢もの商品化 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | 6章 | 鉢もの生産 | 花鉢ものの種類 | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解, 技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び, 主体的に学ぶ態度 | 定期考査, 提出物, 授業への取り組み |
| | | | 花鉢もの特性 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 花鉢もの生産 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3学期 | 7章 | 花壇用草花生産 | 花壇用草花生産の特色 | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解, 技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び, 主体的に学ぶ態度 | 定期考査, 提出物, 授業への取り組み |
| | | | 花壇用草花の利用と管理 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 花壇用草花の栽培 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|---------------------------|----|-------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業科 | 科目 | 植物バイオ | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 7実教 農業703高等学校 植物バイオテクノロジー | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

鹿児島県の特産であるサツマイモを教材に植物バイオテクノロジーの意義や役割などを学ぶとともに、実習や実験などを通して、地域社会で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成します。

2 学習の到達目標

・植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
 ・植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
 ・植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|--|--|--|
| 観点の趣旨 | 植物組織培養などの植物バイオテクノロジーに関するプロジェクト学習を通して、植物体のもつ分化全能性などの特性やバイオテクノロジーの技術的特質、無菌操作から培養、順化等の一連の知識と技術、植物遺伝情報の利用等の仕組みなど、植物バイオテクノロジーに関する知識と技術を、体系的・系統的に理解し身に付けている。 | 農業の各分野における植物バイオテクノロジーの利用に関する課題を発見し、農業への実践事例や植物バイオテクノロジーが果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養っている。 | 植物バイオテクノロジーの学習を通して、農産物等の品質改善や品種改良、生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる農産物の生産や生活環境の創造を目指し、植物バイオテクノロジーを活用した農業及び関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養っている。 |
| 評価方法 | 学習活動の取組,レポート提出,定期考査 | 学習活動の取組,レポート提出,定期考査 | 学習活動の取組 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-----|----|-------------------|--------------------|---------|---|---|---|-------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1学期 | 4章 | 植物組織培養の実際 | 莖頂培養とは | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解、技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び、主体的に学ぶ態度 | 定期考査、提出物、授業への取り組み |
| | | | ウイルスフリー個体の育成 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2学期 | 6章 | バイオマス利用 | バイオマスとは何だろう | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解、技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び、主体的に学ぶ態度 | 定期考査、提出物、授業への取り組み |
| | | | バイオマスエネルギーの変換利用 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3学期 | 7章 | 植物バイオテクノロジーの成果と展望 | 膿瘍におけるバイオテクノロジーの成果 | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解、技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び、主体的に学ぶ態度 | 定期考査、提出物、授業への取り組み |
| | | | 植物バイオテクノロジーの展望 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|------------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業科 | 科目 | 食品製造 | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 食品製造(実教出版) | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・授業では、食についての加工法、貯蔵法、食品表示、衛生、包装技術について興味を持って学び、その基本を理解し、食品を扱う基礎技術を身につけます。また、地域の生産物を利用した加工品について興味をもって学びます。

2 学習の到達目標

・食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を習得する。
 ・食品製造に関する課題を発見し、農業に携わる者として合理的かつ創造的に解決し、生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、主体的に取り組む態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 観点の趣旨 | 加工食品の基本的な製造工程と原理を理解する。 | 地域農産物を活用した加工食品の製造を実践する。 | 知識、技術を活用し、安全で効率的な作業を行う。 |
| 評価方法 | 学習活動の取組,レポート提出,定期考査 | 学習活動の取組,レポート提出,定期考査 | 学習活動の取組 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|-------------|-------------|-----------------|-----------|---------|---|---|--|---------------------|
| | | | | a | b | c | | |
| 1 学 期 | 5 6 章 | 食品の包装と表示、農産物の加工 | 食品の包装 | ○ | ○ | ○ | a: 単元への理解, 技術の習得 b: 課題を解決する力 c: 自ら学び, 主体的に学ぶ態度 | 定期考査, 提出物, 授業への取り組み |
| | | | 加工食品の表示制度 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 穀類・果実類の加工 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 学 期 | 7 8 章 | 畜産物の加工, 発酵食品の製造 | 肉類の加工 | ○ | ○ | ○ | a: 単元への理解, 技術の習得 b: 課題を解決する力 c: 自ら学び, 主体的に学ぶ態度 | 定期考査, 提出物, 授業への取り組み |
| | | | 牛乳・鶏卵の加工 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | みその製造 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 学 期 | 9 章 | 食品製造の実践と企業経営 | 品質管理 | ○ | ○ | ○ | a: 単元への理解, 技術の習得 b: 課題を解決する力 c: 自ら学び, 主体的に学ぶ態度 | 定期考査, 提出物, 授業への取り組み |
| | | | 作業体系 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 食品製造の実践 | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|------------------|----|------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業 | 科目 | 生物活用 | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 7 実教 農業 711 生物活用 | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・園芸作物(草花・野菜)や社会動物の活用に必要な知識と技術を学び、それらの生物の特性を活用した活動や療法について学習します。また、花や野菜の栽培技術をとおして、暮らしの中での植物の活用することで生活の向上を考えましょう。

2 学習の到達目標

- (1)植物や動物とふれ合い、世話をすることによって、生物を福祉的に、あるいは療法的に活用して、思いやることの意義と役割を学ぼう。
- (2)人間と植物・園芸との関係を理解しよう。
- (3)生活における植物および園芸の多面的な利用について理解しよう。
- (4)植物を扱うさいの留意点を理解しよう。
- (5)人間と動物がどのようにかかわってきたか理解しよう。
- (6)動物とのふれあいがもたらす、さまざまな効用を理解しよう。
- (7)動物とのふれあいが、医療の分野にも応用されていることを知ろう。
- (8)植物や動物を活用した活動と、植物や動物を活用した療法の違いを学ぼう。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|--|---|--|
| 観点の趣旨 | 生物活用の意義や役割と人間生活との関わりを通じて生物の重要性を理解し、その技術を適切に活用している。 | 生物の諸課題や活用により生活の向上を目指し、思考を深め、合理的に判断し、表現する能力を身に付けている。 | 生物の栽培、飼育及びその活用について興味・関心を持ち、実践的な態度を身に付けている。 |
| 評価方法 | ・定期考査の成績 ・授業態度・発言 ・出席状況・記録 | ・定期考査の成績 ・授業態度・発言 ・出席状況・記録 | ・技能習得の状況 ・出席状況・記録 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 内容 | 単元(題材) | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---------|-------------|------------------|-----------------|---------|---|---|---|---|
| | | | | a | b | c | | |
| 1 学期 | 第 2 章 | 野菜・ハーブ の栽培と活用 | 野菜の種類と特製 | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解,技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び,主体的に学ぶ態度 | ・定期考査の成績 ・授業・実習態度 ・出席状況 ・技能習得の状況 |
| | | | 野菜の栽培,加工及びその利用 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | ハーブの種類と特製,栽培,利用 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 学期 | 第 3 章 | 動物の飼育と活用 | 人間の暮らしと動物 | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解,技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び,主体的に学ぶ態度 | |
| | | | 動物がもたらす効用 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 動物の活用及び留意点 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 学期 | 第 4 章 | 生物用した療法 | 生物を活用した療法とは | ○ | ○ | ○ | a:単元への理解,技術の習得 b:課題を解決する力 c:自ら学び,主体的に学ぶ態度 | |
| | | | 植物を治療に活用する | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 動物を治療に活用する | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 動物介在療法とは | ○ | ○ | ○ | | |

令和7年度 園芸工学・農業経済科【シラバス】

| | | | | | | | |
|-------|--------------|----|--------|-----|-----|----|-----|
| 教科 | 農業 | 科目 | 地域資源活用 | 単位数 | 2単位 | 年次 | 3年次 |
| 使用教科書 | 地域資源活用(実教出版) | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・授業では、座学が中心ですが、外部と連携する実習がある。
- ・対人サービスやマナーを身につけ、場面や目的などのTPOに応じた服装や衛生管理が、自分でできるように努める。
- ・指宿市や南九州市の地域資源や現状を踏まえた内容に自分で考えながら取り組む。

2 学習の到達目標

- (1) 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---------------------------------------|---|--|
| 観 点 の 趣 旨 | 地域資源の活用について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 地域資源の活用に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 | 地域資源の活用や人間生活との関わりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |
| 評 価 方 法 | 授業中の発表内容 レポート提出 実践活動の取組内容 | 授業中の発表内容 レポート提出 実践活動の取組内容 | 授業(実習を含む)態度 授業中の発表状況 提出物の取組状況 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

4 学習の活動

| 学 期 | 内 容 | 単 元 (題 材) | 学 習 内 容 | 主 な 評 価 の 観 点 | | | 単 元(題 材)の 評 価 規 準 | 評 価 方 法 |
|-------------|---------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|---|---|---|--|
| | | | | a | b | c | | |
| 1 学 期 | 地域資源活用とは | プロジェクト学習 | 地域資源の特性と活用の意義、方法を学習する。 | ○ | ○ | ○ | a: 現状・課題・変化を理解し、関連する技術を身に付ける。 b: 現状・変化に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 c: 現状・課題・変化が人間生活との関わりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 | 授 業 (実 習 を 含 む) 観 察 ノ ー ト |
| | 農山村社会の変化と地域振興 | 施策・取組 | 国や地方自治体での地域活性化の施策・取組について学ぶ。 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 地域資源活用の実践 | 企画と実践・実践例 | 地域の課題を理解し、学んだ知識や技術を活用したプログラムを企画する。 | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 学 期 | 地域資源活用の意義と役割 | 魅力と価値、実践と課題 | 地域資源の活用方法や試作・取組を学習する。 社会的企業活動を学ぶ。 | ○ | ○ | ○ | a: 魅力や価値について理解し、関連する技術を身に付ける。 b: 施策と取組の課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 c: 施策と取組を自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 | ※ 実践活動を1つ行います。 (準備・目的→計画・立案→実行・評価→振り返り) |
| | 地域資源の価値と活用 | 地域資源の見つけ方と活用 | 連携による知恵の活用と役割分担の重要性を学ぶ。 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 観光・商品開発・サービス業・教育・福祉への活用 | 資源の発見と特徴、役割について理解し、運営する方法を考える。 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 学 期 | 地域と連携した活動 | マーケティングとブランドづくり | 特徴と進め方を理解し、社会の評価を知り、比較する方法を知る。 | ○ | ○ | ○ | a: マーケティングを理解し、関連技術を身に付ける。 b: 課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 c: マーケティングを自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 | |
| | | 農業のユニバーサルデザイン化 | ユニバーサルデザインを理解し、農業生産の現場に導入する意義を考える。 | ○ | ○ | ○ | | |